

平成 26 年度 インクルーシブ教育システム構築モデル事業 成果報告書Ⅰ
【インクルーシブ教育システム構築モデルスクール】

教育委員会名	千葉県印西市教育委員会
--------	-------------

概 要

モデルスクールの概要（平成 27 年 3 月 31 日現在）

	モデルスクール名	在籍者数	教職員数
1	印西市立内野小学校	363 名	26 名

【事業概要】

1. モデルスクールの特色（特別支援教育に関する事項）

指定校の特別支援学級には「知的障害」「自閉症・情緒障害」が設置されており、通常の学級との交流学习も個別の指導計画の下、柔軟に行われている。通級指導教室「言語」では、言語指導のみならずＬＤやＡＤＨＤ、アスペルガー症候群等のある児童の指導にも当たっており、障害種や一人一人の教育的ニーズも多様である。

学校全体ではＩＣＴ機器活用も盛んに行われており、ホームページの更新や電子黒板を使用しての授業量も豊富で工夫が見られる。また、校内無線ＬＡＮも整備されている。平成 25 年度の実績を踏まえ、本年度も更なる取組が期待される。

以上のことから、通常の学級も含め、一人一人の状態に応じデジタル教材等のＩＣＴ機器の活用や、ＬＤ、ＡＤＨＤ等の発達障害児童、言語障害児童に対する個別指導のためのコンピュータを使用した合理的配慮の提供が可能となり、その実践の蓄積が期待される。

2. 取組の概要

【教育委員会がモデルスクールに対して行った取組及び支援】

タブレット型端末を利用し、特別な支援を要する児童に対する合理的配慮が適切に行われるよう支援を行った。また、指導主事が通級指導教室の授業を参観し、個に応じた適切なアプリケーションの選択とその利用について助言した。

通常の学級においては、一斉指導の中でタブレット型端末や電子黒板といった ICT 機器を効果的に利用する方法、伝わりやすい指示の方法といった具体的な指導方法について助言した。

モデルスクールで作成したコンテンツ（漢字書き順を大型画面で提示する教材）については、市内小・中学校が共有できるようにした。データを市内小・中学校共有のフォルダに保存し、教材の概要と活用方法について周知を図った。

【モデルスクールとして行った取組】

校内研修会において、教材作成のための研修会及び検討会を行うとともに、校内体制の継続に向け共通理解を図った。授業参観やその後の研究協議の中で、取組状況や来年度の取組について、実践的内容の成果と課題を分析した。

また、年間 20 回程度、特別支援学級及び通常の学級の授業の中で合理的配慮協力員を活用し、教職員の活用面でのスキル補助を図るとともに、校内体制の実践的内容や理論的内容の体制作りを行った。

3. 成果及び課題

（１）成果

- ・ 日常の授業において、特別な支援を要する児童への配慮が、他の多くの児童に対しても理解を促進する上で有効な手立てとなり得ることが明らかになった。授業の中で有効な手立てを学校内又は他の学校間でも共有することができ、支援を要する児童への適切な指導の在り方について教職員の理解を深めることができた。

（２）課題

- ・ アプリケーションの効果的な利用方法について、「より理解を促進する提示の仕方」については短期間で教職員に理解された。一方で児童が考えを表現したり、児童の考え方を共有させたりするための適切な利用方法について検討する段階にはなかなか至らず、適切なアプリケーションを選択するまでにかなりの時間を要した。
- ・ 学習した内容を個々の資料として保管し、振り返りや指導者の評価材料として利用できる機能を持った学習者用のデジタル教科書が利用できることが望ましい。